

歯科外来の看護部の現状

看護部 佐藤 真里

はじめまして

私は看護部歯科外来の佐藤と申します。

新潟市民病院に3年勤務の後、1990年4月に当院の前身である新潟大学歯学部附属病院に入職し今日に至ります。

昨年の10月に現在の歯の診療室・歯周病診療室・加齢歯科診療室の3科担当となりあっという間に1年が過ぎました。まだまだ不慣れなところもたくさんあるため、看護師や歯科衛生士、クラークのみなさん、そして歯科医師などの力を借りながら日々の業務を行っています。

歯科外来の看護部の構成

現在、歯科外来の看護部は、看護師長1名、副看護師長4名、看護師7名の合計12名で構成されています。看護師長の統括のもと副看護師長4名が①総合診療部 ②義歯診療室・冠ブリッジ診療室・小児歯科診療室 ③歯の診療室・歯周病診療室・加齢歯科診療室 ④顎顔面外科診療室・口腔再建外科診療室・歯科麻酔科診療室をそれぞれ任せられ、7名の看護師が①～③（①は随時）をローテーション（1週間ずつ）しながら勤務しています。また、④は、東3階の病棟看護師3名が日替わりで勤務しています。

歯科外来は、夜勤が免除されていることから育休明けやまだまだ手のかかる子育て真っ最中の看護師が多く、時間の限られている中でみんなが一生涯懸命協力して仕事に取り組んでいる外来です。また、十分なキャリアを持ち充実した年齢層に恵まれ、それぞれの良さを認め合い協調しながらチームワークの良さを発揮している外来でもあります。

歯科外来の看護部の取り組み

①教育

毎年、看護部で示される看護目標に沿って歯科外来での看護目標を教育と業務の2本の柱で検討し立案、計画、実施、評価をしています。

歯科外来では、目標の中の1つとして摂食機能療法に焦点をあて、看護師による口腔ケアや嚥下機能訓練、頸部リラクゼーション(オイルマッサージ)などを実践しています。そのため、加齢歯科診療室での看護師による嚥下機能訓練患者数は非常に増えており、今後は訓練マニュアルの改訂も含め、患者様個々に合ったマニュアルの充実を検討し、どの看護師も同じようにケアが実践できるようになるために、知識や技術の共有や向上が必要であると感じています。また、口腔ケアに関しては、今年度は事例報告会や研修会を実施しました。その中で、それぞれ受け持ち患者様へ実施後の評価や問題点等を意見交換しながら知識や技術を共有し、より良いケアが提供できるよう意欲的に取り組んでいます。

一方、歯科外来では新人に対するプリセプターシップが2年前から導入されました。新人看護師が、歯科の専門性を理解し知識や技術の向上ができ、診療補助業務ができるようになるために、各診療科を2週間ずつダブルでローテーションする勤務体制をとっています。そして他の看護師はプリセプターシップを支援するという協力体制ができました。その活動の中で、プリセプターは、指導内容を検討し明確にしていきながら評価の統一もできるためのチェックリストを作成し活用しています。

更に、公私共に忙しい中、2題の看護研究にも取り組んでおり、みんな刺激しあいながらも楽

しく看護実践を展開しています。

②業務

歯科外来では、1週間のローテーション勤務のため、業務に困らないよう看護業務を統一し標準化する必要があり、今までの看護基準手順マニュアルを検討し改訂しています。そのためには、一緒に勤務している歯科衛生士との協力体制も充分考慮する必要があり、各診療科での常々の話し合いはもとより、定期的（1回/2ヶ月）に看護師長や副看護師長、歯科衛生士（常勤）との合同会議も開催し情報交換しています。

歯科外来の新棟移転に向けての取り組み

現在、平成24年に歯科外来が新棟に移転するための準備が着々と進んでいます。私たち看護部も

歯科医師や歯科衛生士と情報交換しながらいろいろな事案に対して検討を重ねています。非常に頭を悩ませることが多く、何度も何度も話し合いをしました。平成22年度は、新棟移転に向けて何を考えていけばいいのかを具体的にするために情報収集する年として取り組んできました。特に、現在の診療環境（診療器具類の名称や設置場所、診療器具類の使用前後の導線、物流管理など）の情報を収集しました。

今後は、情報収集した内容を目的別に具体化し新棟移転が順調に進むようスタッフの協力も得ながら取り組んでいかなければなりません。これからも忙しい日々が続きそうです。体調管理を万全にしていきたいと考えています。

